

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 103人

② 算数 103人

#### 5 留意事項

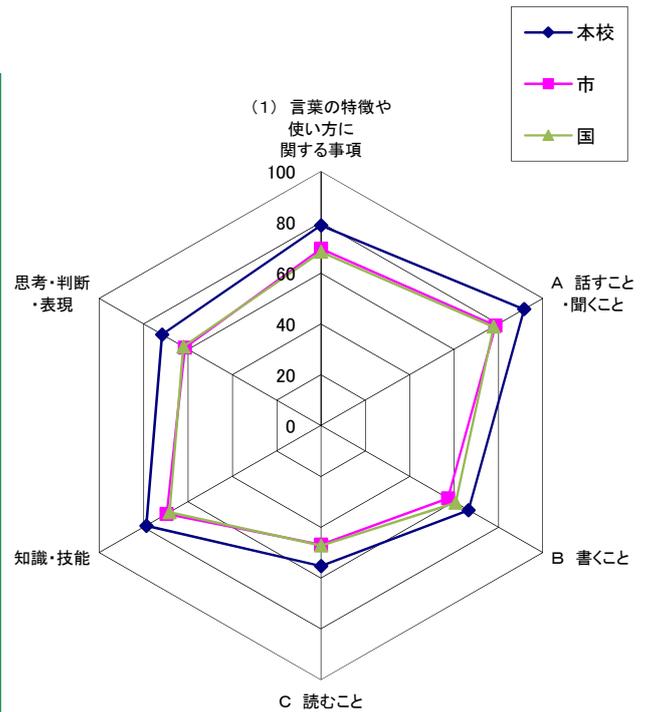
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	91.6	78.7	77.8
	B 書くこと	66.5	57.3	60.7
	C 読むこと	55.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	78.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	71.7	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

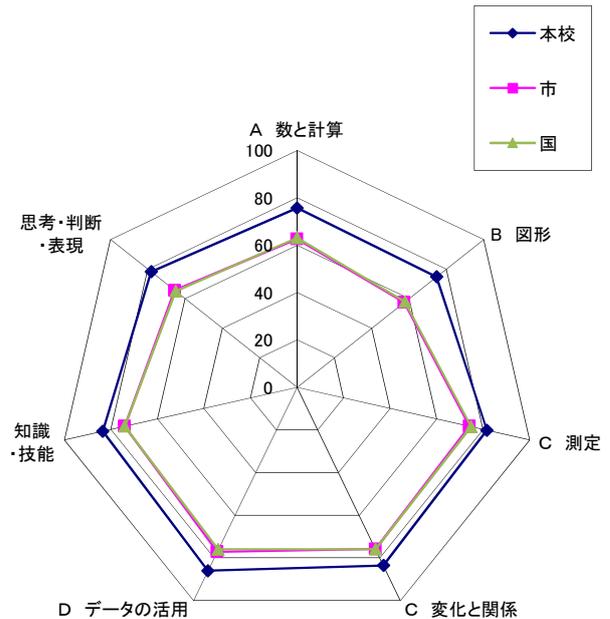
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	<p>○文中の主語と述語の関係をとらえる設問では、正答率が81.6%であり、全国平均よりも18.5ポイント高い。</p> <p>●平均すると、漢字の書き取りの問題はよくできているが、文字によっては正答率が6割に満たないものもある。また、無回答の割合も高くなっている。</p>	<p>・作文などを書く際には、既習漢字を使うように意識させる声掛けを行い反復練習をするなど、能動的に漢字を使用する意識を高めていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>○目的や意図に応じ、資料を使って話す内容として適切なものを選ぶ設問においては、正答率が94.2%で9割をこえている。全国平均より13.2ポイントも高く、正しく理解できているといえる。</p> <p>●話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える設問では、正答率が89.3%であり9割をやや下回っている。全国平均よりは11.8ポイント高いが、話すこと・聞くことの項目の中では一番低い正答率になっている。</p>	<p>・自分の意見を述べる時間では、「始め・中・終わり」の話の構成を意識して話ができるように、作文指導など文章を書く作業を通して、文の構成を考える経験を積み、自分の考えを発表する基礎とする。</p>
B 書くこと	<p>○平均正答率は、全国平均より5.8ポイント上回っている。</p> <p>●理由を明らかにしながら自分の考えを書く設問で、全国平均より4.6ポイント上回っているが、正答率は61.2%で高いとは言えない。</p>	<p>・国語の時間に限らず、時間の振り返り等で自分の考えだけでなく、根拠となる理由を書く活動を取り入れ、根拠を示しながら自分の考えを書く機会を設ける。</p>
C 読むこと	<p>○平均正答率は、全国平均より8.1ポイント上回っている。</p> <p>○文章を読み、それに対して適切な回答を選ぶことができる。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する設問で、全国平均より6.2ポイント上回っているが、正答率は35.9%で高いとは言えない。解答類型を分析すると、要約したことを、出題の条件に合わせて文章に書くことができていない。</p>	<p>・国語の時間に限らず、自分の考えを書く活動を行う際に、条件を出して、その条件に合うような短い文章を書く機会を設ける。</p>

# 宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.7	62.6	63.1
	B 図形	74.8	57.5	57.9
	C 測定	81.6	74.1	74.8
	C 変化と関係	83.5	75.8	75.9
	D データの活用	86.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	83.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	78.2	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○四則計算や工夫して計算することの正答率が高く、学習内容の定着が図られていると考えられる。</p> <p>●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを求める設問では、本校の正答率は全国平均より高いものの、記述して答える力に課題が見られる。</p>	<p>・今後とも基本的な計算の定着に向けた練習を継続したい。また、児童の状況に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにすることで、個に応じた学習の定着を目指したい。</p> <p>・設問に対し無回答となる児童の学習結果を診断的に評価し、学習の仕方も含めて個別に支援し、伸長を図りたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。その差は10ポイント以上あり、4領域の中で最も大きい。</p> <p>○直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題では県平均を25.6ポイント、全国平均を22.6ポイント上回った。</p> <p>●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題の正答率は68.0%で、図形の問題の中では一番低い正答率となった。</p>	<p>・三角形や四角形の作図や、折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的に、また体験的に理解できるように授業を心がける。</p> <p>・操作活動でできた図形から、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えられるような授業を実践する。</p>
C 測定	<p>○●すべての設問で、国や市の平均正答率を上回っており、特に、二つのコースの道のりの差の求め方と答えを記述する問題においては、市や国の平均正答率を10ポイント以上上回っている。上記の求め方と答えを説明する問題では、答えはわかっているが、その過程を言葉や式を使って説明することができない児童が多かったことが課題としてあげられる。</p>	<p>・学習活動の中で文章から立式する際に、式の意味や計算の過程を一つ一つ確認しながら進めたり、式だけでなく図や言葉、実物を交えて説明し合う活動を取り入れたりすることを通して、数学的なものの見方や考え方を働かせて問題を解決する力を育むことができるように指導していく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○●どの設問の正答率も、国の平均より高い。特に、アとイの二つの速さを求める式の意味を選ぶという問題の正答率は、国の平均より10ポイント以上高く、よくできている。しかし、領域全体でみると、この設問の正答率は7割に届かないということから、速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。</p>	<p>・今後も、学習活動の中で身の回りの事象と関連付けて考えられるような場の設定をしていく。異種の二つの割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、日常生活と結び付けて考えられるように指導していく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○●どの設問の正答率も、国の平均より高い。特に、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述するという問題の正答率は、国の平均より20ポイント以上高く、よくできている。しかし、領域全体でみると、この設問の正答率は約7割程度、また無回答だった児童もいることから、今後の課題でもある。</p>	<p>・今後も、学習活動の中で、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもってデータを集めたり、集めたデータを分類整理したりできるような場を設定していく。また表やグラフなど、複数のデータから項目の割合を比較したり、その特徴や傾向を読み取って自分で問題に対する結論を導くことができるように指導していく。</p>

## 宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食は毎日食べていますか」の質問では、肯定的回答率が99.1%で、全国平均を4.2ポイント上回っている。児童は、朝ごはんを食べて生活リズムを整えることができおり、一日を元気にスタートすることができている。これからも規則正しい生活の大切さを食育を通して啓発していきたい。

○国語に関する質問については、いずれも全国平均ポイントを上回っている。特に、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」や「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。」の質問では、全国の平均ポイントを22ポイント以上、上回っている。児童自身、国語科教育の大切さを感じているのが分かる。今後も、国語科学習の重要性について意識させながら、多面的に国語科学習の指導をしていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問への肯定的回答率は52.4%であり、全国平均を5.7ポイント下回っている。地域の行事を通して地域とのつながりがとれるよう、地域の行事等の情報を各種便りを通じて提供していきたい。

●算数については、「算数の勉強は好きですか。」の質問では、肯定的回答が全国の平均ポイントよりも3.4ポイント下回っている。算数に関するその他の質問では、算数の重要性を理解しているのが感じられる。算数の学習は大切ではあるが、好きとは言えないという結果となった。今後は、分かりやすく児童が自ら学ぶ楽しさを味わえるような学習指導を心がけていきたい。

## 宇都宮市立今泉小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習意欲を高める学習課題の設定の工夫	目標(めあて・ねらい)の共有化と振り返りの時間の確保により、児童が主体的に学ぶ授業の流れを作る。	児童質問紙調査の結果で「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問に対する肯定的回答率から、学習についての有用性を感じる児童は多い。しかし、「勉強は好きですか」の質問に対する肯定的回答率から、学習そのものへの好意度は低い。児童が主体的に学ぶ授業をつくることで、児童が学びを実感し、学ぶことの楽しさを意識できるようにすることが課題である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「勉強は好きですか」の質問に対する肯定的回答率から、学習そのものへの好意度は低い。	児童が学びを実感し学ぶことの楽しさを意識できるための、児童が主体的に学ぶ授業づくり	校内研修とリンクして、目標(めあて・ねらい)の共有化と振り返りを軸とした、児童一人一人が学習の内容や自身の学びを捉えやすくするための授業の流れ、今泉モデルの構築を行う。